

# 牛久：学校周辺に見る自然

第7号 牛久二小

2017年4月30日発行

## ＜ 春の校庭で生きもの観察 ～②その他の植物・草本＞

牛久二小4年生との春の生きもの観察、今回は前号で紹介しなかった植物から、草本について。



まずは、おなじみのカラスノエンドウ。名前からもマメ科の仲間と分かりますが、花のつくりには特ちょうがありますね。こんな「マメの花」がついていたら、マメ科です。シロツメクサのような小さなものは、虫めがねでのぞいてみましょう。甘いにおいを出して、ミツバチなどの虫たちをさそう花が多いようです。

← マメ科の仲間、カラスノエンドウ。



ヨーロッパから来たオランダミミナグサ（左）と、比較的乾燥した空き地などに多いノミノツヅリ（右）。

続いて、ハコベの仲間、オランダミミナグサとノミノツヅリ。白い小さな花で、どれもハコベと似がちですが、よく見ると花びらの形やおしべの数などずいぶんと違いがあります（23年度第6号参考）。オランダミミナグサはヨーロッパからやってきた仲間で、ガクにねばねばの液を出す毛がたくさん生えていて、さわるとべたつくのでそれと分かります。



次はシソ科の仲間、ヒメオドリコソウ。これも、花の形に特ちょうがありますね。他にも茎が四角いとか、葉をもむと独特のにおいがするなど、共通の特ちょうがあります。シソをはじめ、ミントやバジル、ラベンダーなどもシソ科。どこにもあるようで、じつはヨーロッパ原産、日本のオドリコソウに似て小型なので、この名がついたようです。

← シソ科の仲間、ヒメオドリコソウ。





左からオニタビラコ（キク科）、キュウリグサ（ムラサキ科）、ムシクサ（オオバコ科）。

コンクリートの割れめに根をおろし、成長した草もあります。非常口の階段にはオニタビラコが、あずまや近くのブロックにはキュウリグサが咲いていました。こんなきびしい環境にという見かたもできますが、他の植物が生えない所で光を一人じめできるという見方もできます。ビオトープのあった湿地には、ムシクサが咲こうとしていました。オオイヌノフグリなどに近いなかまで以前は「ゴマノハグサ科」に入れられていましたが、新しい分け方で「オオバコ科」とされています。



三つ葉で黄色い花だが別の仲間、ヘビイチゴ（バラ科）と、カタバミ（カタバミ科）。

次に、黄色い花を2種類。どちらも三つ葉で花びら5枚、ときどき間違える人もいますが、左のヘビイチゴは葉にギザギザがあり、めしべもおしべもたくさんあります。それに対し右のカタバミは、葉にギザギザはなくハート型が3枚、おしべは長いのと短いのが5本ずつ、めしべは1本で5つに分かれます。じつは、全く別のグループの植物なのです。ちょっと難しいですね。5年生になると花のつくりについても少し勉強しますので、忘れてなければ、その時にまた読んでみるとよいでしょう。



こちらはユリ科の仲間、アルゼンチン原産のハナニラ。ニラのようなにおいがあることから、この名がつけました。花の形からでしょうか、「ベツレヘムの星」という別名もあります。花のつくりは、同じユリ科のチューリップと同じなのです。

← ニラのようなにおいのする、ハナニラ。





こちらにもハナニラにと似ていますね。花のつくりも同じ、ユリ科の仲間です。別名も同じ「ベツレヘムの星」、オオアマナ。日本のアマナにに似ているのでつけた名ですが、ヨーロッパ原産。ちなみに、「ベツレヘムの星」というのは、キリスト誕生たんじょうを知らせた星だそうです。

←こちらにも別名「ベツレヘムの星」、オオアマナ。



こちらは、目だたない花ですね。イネ科の仲間です。ヨーロッパ原産のコバンソウと、同じくイネ科のスズメノカタビラです。



イネ科の仲間。コバンソウ（左：ヨーロッパ原産）とスズメノカタビラ（右）。



最後にケシ科の仲間、ムラサキケマンと、地中海原産のナガミヒナゲシ。説明はいずれ、またの機会に。【理科支援員：宮内】



ケシ科のムラサキケマン（左）とナガミヒナゲシ（右）